

東北町議会だより

第7号

発行 東北町議会
編集 東北町議会広報
特別委員会
電話 0176-56-3111
内線 312
住所 東北町上北南
四丁目32-484



～2月18日 町民綱引き大会～

主な内容

- ・主たる行政報告..... 2 P
- ・12月定例会で審議された議案 5 P
- ・一般質問..... 7 P
- ・各種委員会及び協議会の活動..... 13 P
- ・委員会報告..... 15 P

12月定例会 行政報告



町長 竹内 亮一

秋の叙勲受章者発表

総務課関係

去る十一月三日付で秋の叙勲受章者が発表され本町から小川寅悦さん、川村要一郎さんが受章されました。

小川さんは、らくのう青森農協組合長及び全国開拓農協連合会長を歴任されるなど、永年畜産業の振興発展に貢献された功績が認められ、「旭日小綬章」を受章されました。また、川村さんは、東北町消防団分団長時代の消防活動の功績が認められ、「瑞宝単光章」を受章されました。

本人は勿論のこと、東北町にとっても大変名誉なことであり、その功績をたたえ、心よりお祝いを申し上げます。

次に、十月六日から八日にかけて低気圧による大雨が発生し、大雨対策本部を設置してその対応にあたりました。総雨量は186mm、小川原湖の最高水位は1.52m（危険水位1.30m）を記録し、観測史上2番目の高い水位となりました。

この影響で、家屋床下浸水9棟、町道路肩決壊1箇所、堤防決壊1箇所、水田の冠水36.2haなどの被害をうけ、更に豊田・栄沼・旭北4丁目地区の30世帯、114人に避難勧告を出し、うち6世帯17人が避難をしました。

この大雨のため、消防団・消防署そして国土交通省高瀬川河川事務所から多大なご支援・ご協力を頂きました。改めて関係者各位の皆様方にお礼と感謝を申し上げます。

次に、事業関係では、防災行政用無線（移動系）統合整備事業として、本庁舎・分庁舎の周波数の統一等の工事を施工中であります。

石油貯蔵施設立地対策等交付金事業では、防火水槽1基を水喰地区に、ホース乾燥塔1基を東北第7分団（淋代）に、それぞれ十二月末の完了にむけ工事を進めているところ

であります。また、小型動力ポンプ付積載車1台を上北第6分団（新山）に十九年二月末に設置を予定しております。

上北地区の2集会所1月末に完成予定

企画課関係

最初に「地区集会所施設整備事業」ですが、これは上北地区の2集会所の整備を進めているものであります。工期は十九年二月二十八日までとなっており、建築本体工事は年内に、また、電気設備工事及び外溝工事についても一月末には完成させる計画で進めております。

また、「わかさぎ公園整備事業」では、クラブハウス改築工事、管理棟解体工事及び排水路整備工事、公園進入路整備工事を計画しておりますが、「クラブハウス改築・管理棟解体」工事については、場所的に水稲の収穫後を計画しております。十九年三月末の完了に向けて、工事を進めているところであります。

また、「コミュニティバス購入事業」ですが、現在「スクールバス・町民バス」として使

【議会の動き】

九月

1日	東北町議会定例会（開会）
1日	県民駅伝競走大会東北町チーム結団式
3日	県民駅伝競走大会
3日	県民駅伝競走大会東北町チーム慰労会
4日	東北町議会定例会（一般質問）
5日	東北町議会決算審査特別委員会
6日	東北町議会決算審査特別委員会
7日	東北町議会定例会（議案審議）
7日	日の本中央たいまつ祭（前夜祭安全祈願・前夜祭開会式）
8日	日の本中央たいまつ祭（初日山車運行参列・郷土芸能披露）
9日	日の本中央たいまつ祭（中日）
10日	日の本中央たいまつ祭（最終日山車運行参列）
11日	東北町（上北地域）敬老会
15日	水喰分館敬老会
16日	甲地分館敬老会

更新するものであり、十月十三日に納入となり、使用しているところであります。

調整交付金の二次配分 七千万円交付決定・中 学生が国土交通大臣に 直接要望

建設課関係

本年度発注済みの工事については、天候に恵まれたこともあり、順調に推移いたしております。また、先般十一月二十一日付けで、仙台防衛施設局から調整交付金の二次配分（七千万三千円）の交付決定がありました。

本年度割り当て総額は一億六千八百三十三万二千円で、厳しい社会情勢ながら、対前年比三十四万六千円の増となっております。

なお、この二次配分で予定している事業については、事務手続きが完了し次第、順次発注を進めて参りたいと考えております。

更に、本定例会に補正予算をご提案申し上げておりますが、十月六日から八日にかけての大雨災害による災害査定が十二月上旬から中旬にかけて行われます。

公共土木施設災害復旧事業では、石文・林口線外一件、農地農業用施設災害復旧事業で、野田頭地区外三件の災害査定申請を提出する予定で事務手続きを進めております。

また、十一月十四日に仙台防衛施設局長が来庁し、防衛施設所在市町村として、基地対策に係わる諸問題等の解決を始め、多方向にわたり東北町から多大な協力を賜っているということで、感謝状の贈呈をうけましたので、ご報告申し上げます。

次に、新聞報道等でご承知のことと思いますが、上北中学校の生徒五名が、修学旅行の自主研修の一環として、冬柴国土交通大臣に直接面談をし、一般国道四十五号・上北道路の早期完成について意見を交わすと共に要望を致しております。

将来を担う子供達の、上北道路にかける想いを重く受け止め、議会共々強力に要望活動を展開して参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

大根の緊急需給調整実施・ 長いも価格依然低迷

農林水産課関係

本年の農作物は、一部の野菜で初期生育が遅れ気味で始まりましたが、八月の好天により、ほとんどの野菜で生育を回復し、平年を上回る作柄で稔りの秋を迎えることができました。

しかしながら、主力の長芋価格は依然として低迷していることに加え、秋冬大根が全国的な豊作により、緊急需給調整が実施されるなど、農家経営は厳しいものとなっております。

また、水稲においては、大さな時期の低温、日照不足により、白ふ・不稔が発生し、当地域作況指数が96と平年を下回ったことは残念であります。

更に、十月六日から八日にかけての低気圧による水害において、冠水面積36.2ha、浸水面積が223haの被害をうけました。

進捗率九十％での一等米比率は七十％と低い状況となっております。

畜産においては、県内でも初めてといわれるコガネムシ

の大発生により、牧草の根が食い荒らされ、町営放牧場、北栄地区共同草地及び周辺農家の草地に被害が広がりました。

被害面積は、確認されただけでも80haに及び、来年の収穫のため大部分は種のまき直しを実施しておりますが、春の状況が懸念されているところです。

また、今年度の町のイベントの締めくくりでありました、生き活きまつり・産業文化まつりは、十一月四日～五日に開催しましたが、最高の天候に恵まれ、盛況のうちに終了することができました。

中学生が各種大会で健闘

学務課関係

去る、八月十八日から二十一日までの四日間、香川県丸亀市で開催されました、全国中学校陸上競技選手権大会で、東北東中学校は共通男子砲丸投げに出場しました。その結果は、健闘しながらも、惜しくも予選で敗退されました。八月十九日から二十二日までの四日間、高知県南国市で開催されました、全国中学校柔道大会で、上北中学校は、女

十月

18日	新館神社例大祭
22日	県中学校駅伝競走大会 開会式
22日	八甲田農業協同組合通 常総会
23日	第1回東北町民総合体 育大会
28日	七戸地区交通安全総決 起大会
10日	東北町議会臨時会
13日	観光協会会長挨拶のた め来訪
14日	青森県立八甲田高等学 校創立19周年記念式典 並びに祝賀会
16日	県町村議会議長会理事 会
19日	第1回とうほく芸術展 開幕式
19日	芸術交流会
20日	社民党発足11周年記念 政経パーティー
21日	自由民主党東北町支部 総会
24日	国営相坂川左岸農業水 利事業完工式・完工祝 賀会
24日	議会広報特別委員会
25日	東北町学校保健研究大会
26日	地方行政講演会
27日	中部上北議会協議会理 事会

子個人戦六十三キロ級に出場され、健闘しましたが初戦で敗退となりました。

十月二十七日から二十九日までの三日間、横浜市で開催されましたジュニアオリンピック陸上競技大会で、東北東中学校は、男女A B共通円盤投げ、女子A1500mに出場され、健闘しましたが、予選で敗退しました。

十一月三日に、秋田市で開催されました東北中学校男子駅伝競走大会に、東北中学校が五年連続十一回目の出場をされました。その結果は、二十一校中、五位と大健闘をされました。

同日開催されました、東北中学校女子駅伝競走大会に、同じく東北中学校が三年ぶり八回目の出場をされ、二十一校中、十五位と健闘しました。出場されました選手の皆さんには、心からその健闘を讃えるものであります。

第一回とうほく芸術展開催

社会教育課

昨年まで旧両町でそれぞれ開催しておりました美術展を統合し、更に青い森女流書道展を招待するなど内容を充実

させ、第一回とうほく芸術展を去る十月十九日から二十三日まで五日間、町民文化センター及び町民体育館を会場に開催しました。

町内外から約千人が訪れ、県内画家による絵画、町内在住で今年の県展で大賞に輝いた松橋洋司氏の写真、町内の作家による書、陶芸、こけし、建具の他、青い森女流書道家六名の席上揮毫、郷土が生んだ偉大な文人、大塚甲山の作品の書による紹介など、優れた芸術文化に触れていただき、文化の香る町づくり、郷土が生んだ偉大な文人、大塚甲山を町内外に広く発信できたものと思っているところでもあります。

また、松橋洋司氏から、冬の小川原湖を撮影し、見事の県展で大賞を受賞した「冬湖の彩」の他、二点の写真作品を、弘前市在住の書家吉沢秀香氏から、大塚甲山の詩を書いた書「凌雲閣登臨」一点をそれぞれ町に寄贈されました。お二人のご厚意に町を代表しまして、改めて衷心より感謝とお礼を申し上げます。ご寄贈頂きました作品は、本庁舎及びコミュニケーションセンター未来館に掲示

しておりますので、町民の皆さんも見て頂ければと思っております。

次に、花いっぱい運動ですが、今年度は花苗の配布方法を統一して実施した結果、54町内会、15事業所、町内の全部の小中学校の参加があり、3種類12万本の花苗が栽培され、広く花いっぱい運動が展開されました。

併せて実施した花いっぱい運動環境美化コンクールに地域部門21町内会、職場部門4事業所、学校部門7校の応募があり、それぞれ部門ごとに審査が行われ、入賞した団体は生き活きまつり開催時に、表彰されました。

「第十三回貨幣展」・「第二回おがわら湖の自然展」開催

歴史民俗資料館関係

特別展、「第十三回貨幣展」を七月十四日から八月二十日まで、町内在住の廣田勝美さんのご協力を頂いて開催し、世界各国の貨幣や記念切手など廣田さんのコレクション約千三百点が展示され、期間中町内外から二百七十五名の来場者がありました。十三回目

となる廣田さんのご協力に対し、改めて敬意と感謝を申し上げます。

また、第二回特別展「おがわら湖の自然展」を県立郷土館と共催で、九月六日から十月八日まで開催し、小川原湖の成り立ちや湖周辺に生息する動植物の資料など約百二十点が展示され、期間中、町内の小学生を中心に四百十名の来場者がありました。

青森県民駅伝十二連覇達成

スポーツ振興課関係

九月三日に青森市で開催された、第十四回青森県民駅伝競走大会で、東北町チームは総合で二位となり、町の部・十二連覇の偉業と十三度目の優勝に輝き、金田浩季・吹越今日子の二選手が区間賞に輝きました。

九月十三日に開催の東北町長旗争奪親善グラウンドゴルフ東北町大会に県内各地から愛好者五百三十二名の参加者で盛大に開催されました。九月二十二日には、青森県中学校駅伝競走大会・十月十四日には、青森県高等学校駅伝競走大会が北総合運動公園・陸上競技場を発着に全国

十一月

1日	県原子力施設環境放射線等監視委員会
2日	知事を囲む行政懇談会
2日	日の本中央たいまつ祭反省会
4日	東北町生き活きまつり開会式
4日	東北町産業文化まつり表彰式
5日	東北町生き活きまつり
8日	東北町営放牧場管理検討会
10日	県町村議長会議長・事務局長研修会
14日	議会広報特別委員会
15日	県町村議会議長会理事
15日	会
15日	商工会役員とのグラウンドゴルフ・懇親会
16日	全国市議会議長会基地協議会理事会
17日	県高規格道路建設促進期成会総決起大会
17日	新時代地方行革セミナー
19日	江渡あきのり議員を励ます会
20日	全員協議会
21日	全国森林環境・水源税創設促進議員連盟臨時総会
22日	町村議会議長全国大会

全会一致で可決

◎東北町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案

・国家公務員の給与改定に準じ、扶養手当の額を改正するためのもの

全会一致で可決

◎東北町立集会所条例の一部を改正する条例案

・栄町集会所を新築、新町集会所を移転新築することによる管理運営について定めるためのもの

全会一致で可決

◎東北町公の施設に係る指定管理者の指定について

・栄町集会所の施設について、栄町町内会を指定管理者として指定するためのもの

全会一致で可決

◎青森県乳幼児医療費給付条例の一部を改正する条例案

・青森県乳幼児はつらつ育成事業実施要領の改正に伴い、所要の改正をするためのもの

賛成多数で可決

◎青森県ひとり親家庭等医療費給付条例の一部を改正する条例案

・青森県ひとり親家庭等医療費助成事業実施要領等の改正に伴い、所要の改正をするためのもの

全会一致で可決

◎東北町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例案

・青森県重度心身障害者医療費助成事業実施要領の改正に伴い、所要の改正をするためのもの

賛成多数で可決

◎東北町学校林売払基金条例の一部を改正する条例案

学校林売払収入が発生したことから、同条別表に記載されていない各学校を加えるためのもの

全会一致で可決

◎字の区域の変更について

横沢町内線改良舗装事業により字の区域を変更するためのもの

全会一致で可決

◎町道の路線廃止について
町道3195号線の起終点変更のためのもの

全会一致で可決

◎町道の路線認定について
町道3195号線を町道認定するためのもの

全会一致で可決

◎青森県後期高齢者医療広域連合の設立について

賛成多数で可決

◎青森県消防補償等組合規約の全部変更について

全会一致で可決

◎青森県市町村税滞納整理組合の解散について

全会一致で可決

◎青森県市町村税滞納整理組合の解散に伴う財産処分について

全会一致で可決

◎青森県市町村等非常勤職員公務災害補償等組合の解散について

全会一致で可決

◎青森県市町村等非常勤職員公務災害補償等組合の解散に伴う財産処分について

全会一致で可決

◎青森県自治会館管理組合の解散について

全会一致で可決

◎青森県自治会館管理組合の解散に伴う財産処分について

全会一致で可決

◎農地農業用施設災害復旧事業実施について

全会一致で可決

◎人権擁護委員候補者の推薦について

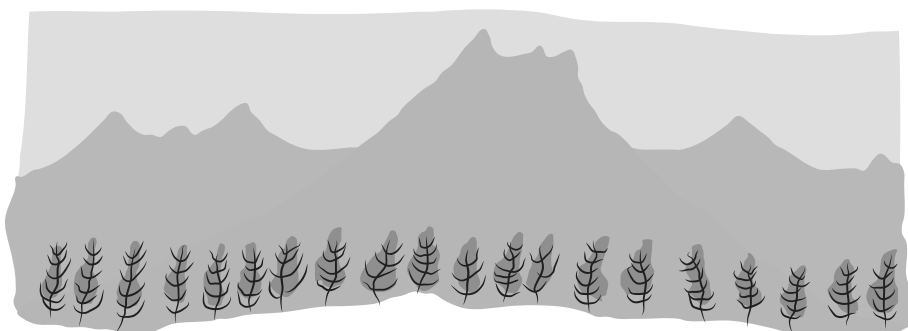
人権擁護委員坂本武義氏の任期が平成19年3月31日をもって満了するので、推薦について議会の意見を得るためのもの

全会一致で可決

◎全国森林環境税の創設を求める意見書案について

全会一致で可決

◎向旗屋生活道路舗装に関する陳情について
全会一致で委員会付託



一般質問

八議員 町政を問う



市川 俊光 議員

「品目横断的経営安定対策」は我が町の多くの農家が対象外にならないか

質問一

農業分野の構造改革と称して、政府は支援する農家を、

一定基準を満たす大規模農家と法人とに絞る品目横断的経営安定対策を推進しています。このことにより、これまで我が町の農業を担ってきた農家が、農政の対象から外されていくことは起きないのでしょうか。

また「今の農業の実態にそぐわない政策だ」という農家の声にしっかりと耳を傾け、政府に対しても言うべきは言うという立場で、実態に即した農政への転換を求めていく考えはないか。

答 弁

町長

品目横断的経営対策は、来年度から実施される見通しになっており、適用基準の中に農地面積と品目があるため農家にとって極めて厳しい状況であります。我が町の作物からいうと現状では米と大豆しか適用にならないことから、県や町村会に対し地域に合った品目にふやして欲しいと申し上げていくところであります。ですのでご理解いただきたい。

質問二

町から大根農家へ支援策はないのか

先日、関東を中心とした大根の豊作を受けて、東北地区の大根農家で緊急需給調整、いわゆる生産者による産地廃棄が実施されました。こうした農家への町としての支援はないのでしょうか。

答 弁

町長

大根の緊急需給調整は、青森県で東北町が一番多い400トンとなっており、大根農家にとって廃棄することは大変痛ましいことだともいえます。町からの支援についてですが、ながいもが3年連続の価格低迷にあるなど、その他の作物も大変厳しく、大根にだけ支援することはできない状況であります。

質問三

全国二番目に高い介護保険料を軽減するべきだ

この4月、我が東北町で保険料の引き上げが行われ、介護保険料は第1号被保険者の基準額が月額換算で五千九百五十円となりました。この保険料の額は、県内の市町村で一番高く、全国的に見ても、沖縄県八重山郡与那国町に続いて全国第2位の高さです。

余りにも重くなった介護保険料の負担に、町民は驚きの声と悲鳴を上げています。

また、介護保険の制度も変更され、これまで介護保険の適用を受けていた車いすや介護ベッドなどの介護用具が保険の適用から外されてしまいました。保険料が高くなり負担はふえたけれども、利用はしづらくなっています。介護保険の保険料・利用料について、町として負担の軽減策を实行するお考えはないのでしょうか。

答 弁

町長

介護保険料は、これまでの3年間の実績と、これからの3年間の推測、これに基づいて審議会で決めて決定しております。我が町の場合は給付の部分の負担割合が多くなってきたというのが実態であります。

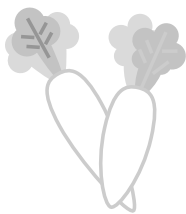
保険料の軽減については、所得段階を5段階から6段階とし、低所得者層の負担軽減となり、すべてが引き上げになっていくわけではなく下がっている部分もあります。

利用料の軽減については、町民の負担を少なくしたいという思いはありますが、全市町村とも自己負担が1割と決められており、利用料の軽減については期待にこたえることができないかと思っております。

要望

介護保険料の減免制度を柔軟に活用していただきたい

介護保険の制度の中に、減免の制度がございます。災害



等で減収になったなど、そういう方等が対象になる制度であります。こういった制度等をもっと町民の皆さんに広く活用を呼びかけ、柔軟に対応・活用して、負担の軽減策をとり、行政が住民の思いに心を寄せているということを示していくことを要望します。

来年はさらに、所得税、住民税の定率減税が廃止されることが既に決まっているときに、せめて町から町民への負担は抑えるべきときではないでしょうか。これからの町民負担についてのお考えをお聞かせください。

質問四

住民税増税による町民負担をどう考える

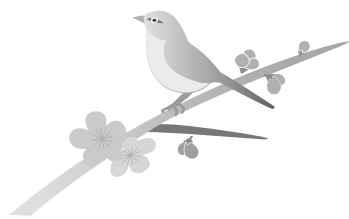
答弁

町長

今年、これまで住民税に対して実施されていた公的年金等控除が縮小され、また六十五歳以上の高齢者の皆さんに適用されていた老年者控除が廃止されました。こうした増税策は、単に住民税の負担がふえたということにとどまらない問題で、住民税の負担がふえますと、それを基準にして加算されている国民健康保険税所得割の部分がふえます。さらに、介護保険にも反映し、介護保険料の負担も段階が上がります。聞くところにより

ますと、これまでの7倍、8倍の税負担となっているといいますが現況をお知らせください。

国は、住民税の負担がふえますが、町民の負担増になつたものを町独自で負担するとは、難しい状況にあります。



質問一

護岸堤は通行許可制に移るのか



沼田徳右衛門 議員

小川原湖周辺の護岸堤については、国交省の計らいによつて大部分が舗装整備をされましたが、ところどころに車止めや、赤い文字で書かれた「警告」「一般車両の通行はご遠慮願います」と看板があり、通りにくい状況です。

護岸堤を通行しなければ小川原湖に行けない漁師や、田んぼや畑に行くために通る方も数多くいますが、この道路は国交省から通行の許可が必要になるのか、また将来的に車輛の立ち入りを禁止するようになるのか。

答弁

町長

護岸堤の道路は、一般の公道ではなく、国が災害とか事故防止を含む河川を維持管理する通路というふうに定められております。しかし、通行の必要のある農業・漁業者を禁止することではないと思っております。

質問二

豊田地区及び小川原湖の排水対策

十月初旬の豊田地区の大雨災害は、行政、あるいは関係者の迅速な対応によつて災害を最小限に食い止めることができたことに対して、深く感謝を申し上げます。今後の豊田地区及び小川原湖の排水対策についてどのような考えをお持ちなのか伺います。

答弁

町長

県当局も現場を見て、やはりこれはため池に落とすのではなく赤川の方に流すべきだという判断を持っております。工期は決まっていないが、早ければ来年から少しずつ整備事業が進み、最終的にため池

はなくなるといふ方向で県とも詰めて考えております。

質問一

並行在来線の負担はどうなる



森川盛人 議員

並行在来線は4年後にJRから分離され、県の第三セクターである青い森鉄道で経営することになっております。

現在、青い森鉄道は目時・八戸間26キロを運行・運営しているわけですが、2005年度の決算では二千万円の赤字と聞いております。4年後の八戸・青森間は96キロで約4倍の距離になり維持費も当然多くかかり黒字になるとは思えないのであります。

一九九七年に、県は沿線市町村に対し、「財政運営に支障を与えるような負担は求め

ない」と方針を示していたが、今も県の対応や考え方に変わりがいいのか。また町長はどのように考えているのか示していただきたい。

答 弁

町 長

私はこの地域はエネルギーの供給基地であることや米軍の駐留などから地元負担よりも国に負担を求めるべきだということを利用者会議で申し立てております。また、国・県でも新幹線等を含めて補助対策について検討するという動きになってきています。並行在来線は、明治二十四年に開通してから、我が町の礎を築いてきたと思っておりますので新幹線と同じに負担してくれるようこれからも働きかけていきたい。

答 弁

町 長

町の利用者会議のなかでも様々な要望があり、また沿線市町村の11市町村でお互いの利用計画や活用の仕方をお話する機会を設けることになっております。せっかくの計画を実現するためにも、県に補助対象事業としてもらうことと、合併特例債を使えないか、この二つを強く要望していきたい。

駅の有効活用策と県から財政負担はあるのか

質問一

並行在来線の有効活用策を話し合う「青い森鉄道活用会議」の主要答申をお聞かせ願



議員 乙 供 吾 一

健康増進センターについて

質問一

昨今新聞紙上で騒がれている夕張市に象徴されるように、建設には補助金など充てるためにほとんど一般財源を使わなくてもよいが、後々の管理費が増大なものとなり大変な財政負担が伴うことは目に見えております。国でも、社会保険庁の管轄である保養センターなどを売却している現状であります。そこで建設に当たって町民から賛否のアンケートをとるなど、合意を得ることが先決であり、また、特別委員会をつくってもっと議論を詰めるべきであります。昨年11月に実施したアンケートをどう生かしているか、またその結果を伺いたい。

答 弁

町 長

また建設した場合に、町民の健康増進が図られる効果で、町民の保健税がどれくらい軽減される見込みなのかと、維持管理費などについてお答え願います。

また、東北地区の町民は福祉センターの風呂がなくなる心配をしているので答えていただきたい。

除雪業者の選定は、競争入札も行わず、一業者に二路線を委託するなど不透明で公正・公平を感じることはできず、官製談合と思われる方がない。町長選挙当時の勝ち組・負け組の表現に当てはまっているように思われるが、まっとうのように思われるが、公正・公平・透明性を示すためにも自由競争入札制度にできないか。

答 弁

町 長

除雪については地域のために奉仕活動と考えおり、路線についても担当を含めて調査し協議をしながら地域にとって効率よく配置したつもりであります。勝ち組・負け組という意識は全くありません。また昨年の除雪の時間が遅いという指摘から複数の重機を投入し、時間を短縮できるように配慮し、地域のために万全を期したいと思っております。

除雪業者の選定を自由競争入札にできないか

質問二

ます。



議員 治 鉦 名 蛭

質問一 道州制の現状について

安倍総理も道州制論者であるようで、道州制導入が加速する可能性もあると思われる中、青森県でも将来の道州制に対応するかのよう、6圏域での市町村合併が将来的に理想だと発表している現状であります。町長はどのように受けとめているか。また、町長として詳しい内容を知り得る立場にあると思われるので、その状況についても伺いしたいと思います。

答 弁

町長 道州制については、私ども

に今まで説明された経過はございませんが、総務省で出されている資料を見ますと、全国を10前後に地域わけするよう案もありますが、東北を一つにするのか、北海道を含むのか全く定かになっておらず、あくまでも行政サービスの効率化を前提に、行政のありかたの可能性の一つである状況であります。

道州制の将来については不明であるが、私は税がきちんと地方に移譲されてこそ成り立ち、地方にもある程度の権限を与えて自己責任でやっていく部分があってもいいのではないかなという、基本的な考えを持っております。

質問二 今後の地方交付税の見通しを伺う

新聞報道等によると、景気の回復が著しく、過去最長の記録と言われたいざなぎ景気を上回る4年10カ月も続き、国税収入も平成十七年度決算では前年度3兆円も上回って確保されているとある。国税収入の32%が地方へ交付され

る現行基準では、増額になると思われるが、最近、国の行革にちなんで交付税制度の変更が叫ばれていることから、どのような形に変更される状況なのか伺います。

答 弁

財政課長

交付税5税の定率分に一切手をつけたいとするならば増になるものと思っております。現在いろいろ議論されているわけでございますが、まだ国からはその内容につきましては一切示されておらず、年末から年始にかけて策定される地方財政計画により、国から大枠が示されるまで知り得ない状況にあります。

質問三 認定農家制度に対する町の対応策は？

農業政策が変わり、今まで全国一律に補助制度が行われていたのが、今後は4町歩以上の認定農家を中心に助成制度が実施され、それ以外の農家は共同で20町歩以上あれば

対象になるなど、面積等の基準が設けられますが、当町としてこの制度にどのような方法で対応していくのか伺います。また、当町の認定農家の数もあわせて伺いいたします。

答 弁

町長

現在の認定農業者は238あり、東北地区152、上北地区86となっております。農地面積や品目に基準があり、大変厳しい現状ですが、農協と連携し営農指導等をしていくなど、集落営農も進めながら認定農家をふやしていく必要があると考えております。

質問四 我が町の「いじめ」の現状と防止策を問う

県教育委員会のいじめ相談電話が開設され、1週間で28件の相談が寄せられたと報道がありました。当町ではないと思いますが、当町のいじめの実態を公開できる範囲でお願いいたします。

答 弁

教育長

いじめの現状について学期ごとに犯罪行為、不良行為、いじめ等に関する報告書を各校から提出させてもらっており、この報告書から、現状ではいじめは無いとらえております。

しかし、学校にはいじめがあるという前提で常に目を光らせて、一人一人の子供を見てほしいという指導をしております。

また、各学校とも生徒指導部会を中心に児童・生徒個々に対するアンケート調査を常時行っており、子供が知っているいじめについても把握する努力もされております。

教育委員会としてもいじめについて最重要課題としてとらえていきたい。





蛭沢達也 議員

質問—

国民健康保険税の増税は到底納得できない

全国的に見れば景気回復状況にあるというが、地方まで至っていないのが現状であり、現在の旧東北町の野菜農家は生産調整による野菜の廃棄処分等から非常に厳しい状況です。このように町民の痛い声が聞こえる中、国保税を2年続けて大幅な増税をすることは、旧東北町の町民から支持を得た者として到底納得できるものではありません。もっと町民を案じて本当の声・思いを聞き、年間予算130億円の財政の中から何としても工面して、2年連続の増税に對して間を置いてほしい。町長は金融面、助役は農業、収入役は行政マンと、それぞれ

長い経験のある3人の町のトップの思いをお聞きたい。

また、合併後の当町の国保税は、上北を減額、東北を増額して調整したが、税率が統一されていない不均一課税となっています。町民も疑問を持っていますのでその経緯経過と、今後、赤字の場合は永久的に増税で調整していくのか。また統一課税をした場合の見通しを説明いただきたい。

不均一課税は合併から5年間是可以するが、一方を下げて、一方を上げる、このような不均一課税はあり得ないということに耳にしましたが、県に確認や指導等は仰いでのことなのか。また、違法性はないのかをお聞きたい。

答 弁

町 長

合併協議会で十八年度に旧上北の税率に統一することが合意事項でありましたが、税率差が大きく東北地区の負担増が大きすぎることから十八年度は経過措置をとり、十九年度で統一することを運営協議会や議員の皆さんに理解を得た上でやっていますので

ご理解していただきたいと思っています。

一方を下げ、一方を上げて不均一課税することについては、違法性はありません。

税率統一後の運営の見通しについては現在の推計ですが、十九年度は赤字で二十年度、二十一年度は赤字になる見込みであり、税率については医療費の改定基準も定まっていないことや、町民の所得状況等、不確定要素が多く定かではないが、大変厳しいと考えております。

答 弁

助 役

私も非常に身の切られる思いであります。

我が町の産業である農業全体の所得低下から税収の大幅な低下による結果だと考えております。これを打破、改善向上させるための方策・施策を検討し、何としても所得の向上を図り、税率・税額の低下の方向で進みたいと考えています。

答 弁

収入役

「請負工事等入札一覧表」から限られた業者が入札に参加

質問—

入札に参加できる業者をだれが決めているか



蛭沢正雄 議員

議員と民間人で構成される国保運営協議会で協議された結果が「税率を統一すべき、増税もやむを得ない」という答えであります。

行政マンの立場として答えるならば、協議結果を踏襲し、動いていくのが役目だと思います。

して落札しているようだが、一工事の入札参加業者をだれがどのような方法で決めているか。また、町民、関係業者にも公平だとわかるような入札に改革する考えはないか。

一回目の答弁で、確かに審査会があって法的にやっているから問題はない。そう言いながらも陰では、そういう噂があるわけです。これは法律以前の問題です。私は最終的には町長の気持ちひとつで改正しますよ。「最高ベストで改革は必要ない」そうであれば町長に期待しない。ただ、法律に関わらない点で答えてください。

答 弁

町 長

業者選定は指名願約1300社の中から審査会において成績や実績等により決定し、私の決裁を受けて入札、発注の手續きに入ります。四月から町のホームページでも入札結果を開示し、議員の皆様には議会ごとに配布して、透明性を持たせていることもご理解いただきたいと思います。

答弁

助役

指名業者の選定にあたっては、私と課長職9人の10名の構成である指名審査会で1工事に5、6業者を選定しています。

選定規程については工事成績や工事契約の履行状況、あるいは技術者の配置状況、手持ち工事の状況、更には当該工事施行に対しての技術的適性など諸規程あるいは規則にのっとり条項に照らし合わせながら厳正・公正に選定をしています。

質問一

町の財政をもっと詳しく公開すべきだ

報道で夕張市民は「市長が作った借金を何で市民が払うんだ。市議員は機能を果たしていない。」私見だが、議員はしっかりと町財政にチェック機能を果たさなければならぬと思います。

そこで、当町の平成18年度当初予算の地方債(借金)は139億円で、町債を返済で

きないので町債借換え(損失利息1億4千万円)しても、平成20年度から2億円以上赤字という説明でした。しかし、一転して平成18年12月の議員全員協議会では、今後の財政見直しから平成17年度18年度黒字、19年度から0円の見通し、この見直しは、平成18年9月の借換え時期にはわかつていたはずだと思う。夕張市の財政問題からも、町民も中身について知りたいはずであります。

新しい事業計画並びに財政見通しの資料もなく説明不十分でありますので行政改革の主な事項を具体的に示した資料を出し、説明いただきたい。

答弁

町長

この町債の借換えについて将来どういう評価を受けるかわからないが、借換えにより将来の財政の見通しが立てられました。また国も県も理解してくれましたし、よそではやれないものをやったつもりです。

財政の見直しについて普通交付税の決定額が基礎になっ

ており、当初、国から示された5.9%の減にくらべ、ほぼ前年度同額と大幅に増額になったことから数値的に変わっています。

内容の資料は建設計画や見直し、補助事業等まで明確に出し、また、議会広報等でも交付税の状況など行政報告をしていることを理解していただきたい。また、3月以降の改革についても全員協議会で言ったように各団体との調整がついてから議員の皆様に説明したい。



山端伸憲 議員

質問一

役場発注の物品や車検を地元から

地産地消、地域の生産された農産物や水産物を地域で消費する。これは、地域内食生活向上対策事業から出た言葉

ですが、何に対しても言えることだと思えます。商工業に

対する我が町の方針としてお聞きしますが、現在、我が町の物品の購入及び公用車の車検整備の発注で、町外に発注及び委託しているものは何か。また、その理由と地元にすることはできないものか伺います。

答弁

町長

物品の発注は8割弱を地元からしており、どうしても地元で調達できない部分は町外発注し、地元優先でやらせていただいております。

答弁

総務課長

車検について、本庁舎に車50台、分庁舎に74台、合計で124台ありますが、車検の必要ないもの等を除きますと、89台となります。

建設用機械等特殊な部分は、町外の業者に車検等をお願いしている部分がございますが、一般車両については原則的に全部、町内の業者に車検をお

願っている状況です。

特殊車両等の車検についても、地元でとれるものかどうか担当者によく協議をして検討していきたいと思っております。

質問二

加工品の研究・開発部署の増設について

我が町は、日本の台所と言ってもいいほど食材の宝庫だと思えますが、その品質、労力の割に所得の少なさが目立ちます。そこで、どうすればこの町が豊かになり、そして町民が潤うか、本当の意味での商いの心を持った部署の設置に関する考えをお聞かせ願います。

答弁

町長

現在、東北地区の特産品販売促進協議会に開発補助金を出して12品目を開発し、市場に出して一生懸命頑張っております。

もう一つは、北部上北、三沢、東北町の商工会と原燃で

促進協議会を今年9月に設置し、地元産のPRと、マーケットの開拓を目標に協議をしており、実りある協議会であつてほしい思いをいたしております。

付加価値を高めてマーケットに出したい思いは同じであり、皆さんと一緒にそういった面でも意を注いでいきたいと思っております。

質問三

今後の合併の考えを問う

今後のまちづくりを考える上で上北道路は外せないものですが、青森と八戸間がつながると中心地は東北町か七戸町になるはずです。そこに市場を設ければ、この町はまだまた繁栄します。新しい流通ルートや新幹線搭乗者による観光地とし、また雇用問題の解決にもつながります。私は旧4町の合併賛成論者であり、また町民の多くは旧4町の合併を望んでおります。いまい度、今後の合併に対する町長の考えをお聞かせ願います。

答 弁

町 長

新幹線があと4年すれば開通することになっており、七戸町から、商工会等を含めてマーケットへの出店等についてお話もきていますので、我が町の所得向上に結びつくことは大歓迎であります。

今すぐに新たな合併という考えは無く、今問われている大事なことは行財政の透明性を持つことであり、開示しながら皆様の知恵をかりているところであります。

質問四

安全か？我が町の小中学校の耐震レベル

現在の東北地区の小中学校では、水喰と千曳以外は老朽化が激しい状況です。平成十八年九月の資料では、青森県の耐震診断実施率は35・2％と、全国でも41番目となっております。

公立学校施設は、地震等の非常災害時に児童・生徒の生命を守るとともに、地域住民の緊急避難場所としての役割

答 弁

町 長

学校の建替えや統合は地域の意向を踏まえながら総合的に考えていかなければならない問題だと思っております。

耐震に係る調査は義務付けられていることから調査をしております。修繕、改築を優先的にやらなければならぬが財政上厳しく、一方で子供達の安全はどうするのかジレンマがあり、課題として残っております。

答 弁

学務課長

調査については来年度から着工します上北中学校、甲地小学校、それから建設後8年たっている水喰小学校を除いた全7校すべて実施済みであります。

答 弁

教育長

結果は、すべてが早期に改築を望まれるという回答であります。

防衛庁の予算もさることながら、町の財政状況からも、統合ということも視野に入れながら、早期の改修を基本として努力していきたい。

各種委員会及び協議会の活動

★総務企画常任委員会

開催日	事 件 (内容)
11月27日	①平成18年度主要事業進捗状況について ②12月議会提出案件(補正予算案)の概要について ③その他

★産業建設常任委員会

開催日	事 件 (内容)
11月27日	①平成18年度主要事業進捗状況及び工事発注予定について ②12月議会提出案件(補正予算案)の概要について ③その他

★教育民生常任委員会

開催日	事 件 (内容)
11月28日	①平成18年度主要事業進捗状況について ②12月議会提出案件(補正予算案)の概要について ③その他

★議会運営委員会

開催日	事 件 (内容)
12月4日	①平成18年度第4回東北町議会定例会付議事件について ②一般質問通告状況 ③請願・陳情書等受理状況 ④懇親会について ⑤その他
12月12日	12月12日①陳情の取扱いについて(向旗屋生活道路舗装に関する陳情書) ②その他

★全員協議会

開催日	事 件 (内容)
11月20日	①今後の町財政の見通しについて ②国保税について ③その他
12月4日	①今後の町財政(建設事業費)の見通しについて ②その他

★原子燃料サイクル対策等特別委員会

開催日	事 件 (内容)
11月30日	①原子燃料サイクルの計画及び現状について ②各施設の見学について ③その他

★議会広報特別委員会

開催日	事 件 (内容)
10月24日	①議会だより第6号の編集について ②その他
11月14日	①議会だより第6号の編集について ②その他

委員会 報告

○総務企画

常任委員会

(十一月二十七日開催)

委員長 沼田 徳右衛門



千曳駐在所の廃止が一年延期

まず、総務課では、上北駅前、前道路の区画線について質疑があり、担当課において確認対処することでありま

した。また、千曳駐在所が存続するよう働きかけしていただきたいとの意見があり、このことについては、県の方針として廃止の方向であります。が、地域の事情を考慮して19年度は今のままで残してもらえる、との回答でありました。

次に、税務課では、住民の負担を増やすことは避けていただきたい。もし、増えるように、いきなり請求が行ってびっくりすることのないように、配慮をしていただきたいとの意見が述べられた。

○産業建設

常任委員会

(十一月二十七日開催)

副委員長 田嶋 悟



除雪は住民サービス向上を図る・事業実施は町民へ周知徹底と意見

最初に、事業実施計画について質疑があり、長時間にわたり議論した結果、議会運営委員会においてその対応を進めることといたしました。

次に建設課では、除雪について質疑があり、県単価を参考に町の単価を定め随意契約している。また、台数を多くしたのは、昨年の課題を踏まえ、住民のサービス向上を図るためにおこなったとのことでした。また、住民サービスを落とさず経費節減を図っていただきたいとの意見が述べられた。

次に、農林水産課では、肉用牛繁殖導入事業、EM菌購入費、大根の需給調整について質疑が交わされた。

次に、商工観光課では、清水目オートキャンプ場の利用状況及び小川原湖公園の管理に係る指定管理者の選定及び指定方法について質疑が交わされた。また、湖水祭り等の開催にあたっては、事業実施の経緯などを町民に周知徹底

していただきたいとの意見が述べられた。

最後に、町が計画している長いも洗淨選別施設の先進地視察については、機が熟してから実施することとした。

○教育民生

常任委員会

(十一月二十八日開催)

委員長 佐々木スミヨ



実年式参加者51人・「早寝・早起き・朝ごはん運動」を町民運動として推進

ただきたいとの意見が述べられた。

次に、保健衛生課では、健康診査、予防接種、不法投棄について、質疑が交わされた。

次に、学務課では、保育所・小・中学校連携教育推進事業、自動車体外除細器導入事業、学校生活相談員配置事業について質疑がかわされた。その中で、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を町民運動として進め、食育から学力の向上につなげていく方向であることが示された。

次に、社会教育課では、実年式の参加者が300人中51人であった。実施の仕方について調査・研究したいとのことでありました。また、花いっぱい運動については、経費を節減するため、多年草の花木を植栽してはなどの意見が述べられた。

次に、中央公民館では、地区公民館運営費補助について質疑があり、合併して間もないこと、また、歴史的なこともあり教育長において調査・研究していただくことにしました。

次に、スポーツ振興課では、北運動公園植栽管理費につい

て質疑が交わされた

○議会広報

特別委員会

(十月二十四日、
十一月十四日開催)
委員長 笹倉 健



編集方針を決定

議会広報発行にあたり、編集方針を協議した結果、次のとおり編集することといたしました。

①編集は事務局案を確認、更正する。また、全体やページ数が把握できるようにゲラ刷りで確認する。

②一般質問の部分については、委員会開催前に閲覧期間を設け、質問者と答弁者に確認できるようにする。(事

務局より連絡する)

③一般質問、答弁は要旨を掲載し、一質問400字程度とする。

④一般質問について、質問事項から大きくそれないよう議会進行してもらう旨、委員会から議長に申し入れる。

⑤議長に対する委員長報告は必要に応じて報告する。

○原子燃料サイクル対策等特別委員会

(十一月三十日開催)

委員長 蛸沢 正雄



原燃の各施設見学

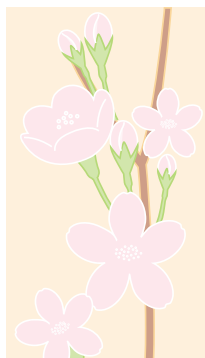
最初に、企画課長から原子燃料サイクルの計画及び現状についての概略説明を受け、

その後施設見学を行いました。

施設見学は、六ヶ所原子燃料PRセンター、環境管理センター、再処理工場中央制御室を見学し、その後再処理事務本館において質疑を行いました。

なお、当委員会は、原子燃料サイクル施設に係る安心・安全確保及び施設周辺の環境保全に対する調査研究並びに関係機関に対する要請を引き続き行っていくことといたしました。

○質疑や見学の様子



編集後記

今月は議会だより第七号をお届けします。

本号は十二月定例会の審議内容を編集しましたが内容の一部分を要約しておりますことをご了承ください。

編集委員会では町民の皆様に親しまれる紙面作りを心がけております。ご意見、ご要望等ありましたら匿名でも結構ですので、ご投稿をお願いします。

議長	長 檜 館 長 吉
委員長	笹 倉 健
副委員長	蛸 沢 正 雄
委 員	佐 々 木 ス ミ ヨ
委 員	沼 田 徳 右 衛 門
委 員	森 川 盛 人
委 員	岡 山 粕 男